Ⅶ まとめ

1　沖田遺跡群の縄文時代について

遺構について

沖田Ⅰ遺跡からは黒浜式期の第５号住居跡１軒、諸磯ａ式期の第７号住居跡１軒、諸磯ｂ式期の第３・９・10・11号住居跡の４軒と、各時期の土壙７基が発見された。沖田Ⅱ遺跡は、遺物包含層のみ検出され、遺構は発見されなかった。また、沖田Ⅲ遺跡からは黒浜式期の第20号住居跡１軒、諸磯ａ式期の第18・19号住居跡の２軒が検出されている。いずれも住居跡覆土出土の遺物から判断された時期であり、埋甕を伴う住居跡は４軒であった。

住居跡のプランは長方形を呈するものが殆どであり、黒浜式期の第５号住居跡はやや台形状の長方形で、壁柱穴がしっかりと巡るものである。主柱構造が明確ではなく、関山式に近い柱穴配列が窺える。黒浜式の中でも古い様相を示していよう。やや新しくなって諸磯ｂ式の第３号住居跡や第９号住居跡は、プランが長方形となり、壁柱穴の間隔が広がり本数を減らしていくい傾向が窺われる。第３号住居跡は重複しているのであろうか、壁柱穴が二重に巡っている。出土土器も黒浜式と諸磯ｂ式を主体とするため、重複住居跡の可能性が高い。

一方で、諸磯ａ式期の第７号住居跡は円形に近い隅丸方形を呈し、非常に小型の住居跡で、埋甕を持つが、壁柱穴は存在しない。他の住居跡と比べて明らかに形状が異なり、形態から通常の住居跡ではなく、特別の機能を有していた可能性も十分に考えられる。

縄文時代前期の土器群について

沖田遺跡群出土土器は、中期の破片（第21図130～132)が若干存在しているものの、殆どが前期の土器群であった。時期を追って概観する。

沖田遺跡群最古の土器群は、前期前葉の花積下層式の新段階から二ツ木式段階にかけての土器群であり、沖田Ⅲ遺跡のグリッド（第54図１～５）から出土している。隆帯による環状のモチーフ（１）や、器壁が薄く、胴部上半に２条の低隆帯を巡らせて幅のやや狭い羽状縄文を施文するもの(２～４)、胴部に隆帯を巡らせてループ文を地文に施文するもの（５）等の種類があり、ループ文の存在からすれば二ツ木式の古段階に位置付けておいた方が良いかもしれない。

次に、古い土器群は関山式Ⅱ式の土器群で、沖田Ⅰ遺跡のグリッド（第19図１～９）から出土している。片口付の深鉢土器（１）や、「正反の合」による異条斜縄文で羽状の菱形構成を採るもの(２、３)、ループ文でモチーフを描くもの（４～９）が存在する。

黒浜式段階は県北部という地理的な要因も強く、文様のある土器は殆どが大形菱形文系土器である。第３号住居跡（第９図１、２）や、第8号土壙（第17図３)、沖田Ⅰ遺跡グリッド（第19図10～15）等で出土している。何れも平行沈線文で菱形文もしくは疑似菱形文を描くものであり、爪形文を使用するものはなかった。また、胴部に整然とした菱形状の羽状縄文を施文する土器が、第５号住居跡（第11図２）と沖田Ⅱ遺跡の包含層(第49図１～10)から出土している。第49図１～10は胴下半部に幅の広い羽状縄文を施文し、胴上半部には爪形文の大形菱形文が描かれよう。他に、口縁に小突起の付くものがある(第19図18、20)。18は波状口縁の波頂部に突起が付くもので、20は平口縁に多単位の小突起がつくものと思われる。

諸磯ａ式段階は第７号住居跡の埋甕（第12図１）と、沖田Ⅰ遺跡のグリッド（第20図71～84）から少量出土している程度である。口縁部の幅狭な横帯区画内に、平行沈線文で鋸歯状文を施文するもの（71～75）や、円形竹管文を垂下するもの(81、82)、口縁部に細かな爪形文を施文するもの(83)、米字文系のモチーフを施文するもの等が存在する。

諸磯ｂ式は、爪形文を多用する古段階の土器群が第10号住居跡(第15図10～23)と沖田Ⅰ遺跡グリッド(第21図85～114)で出土しており、浮線文を特徴とする中段階の土器群が第３号住居跡（第９図12～18）と、第

9号住居跡の埋甕(第13図1)、沖田Ⅰ遺跡グリッド(第21図119～121)で少量出土している。古段階の爪形文は、爪形文間に刻み目を施すもので、大振りの褶曲文の間に渦巻文や円形竹管文を配する構成を採る。また、中段階の浮線文は古段階の渦巻文のモチーフを浮線文化したものから、独立した渦巻文が存在するなど、やや時間幅が看取される。第9号住居跡の埋甕(第13図1)は、頸部が高い位置で括れ、底部付近が窄み、浮線文の横帯化が著しいこと等から、浮線文の中でも比較的新しい。

最後に、第7号住居跡の埋甕について若干検討したい。第12図1は口縁部が朝顔状に開く深鉢型土器で、残念ながら口縁部と底部を欠損する。口唇部直下と胴部を帯状の磨消縄文帯で区画し、間に挟まれた口頸部文様帯に磨消縄文による渦巻文や幾何学的なモチーフが描出される。この磨消縄文帯は、幅の狭い平行沈線文で縁取られ、平行沈線文上に細い半截竹管を器面に対して垂直に近い角度で刺突した爪形文を施している。口頸部の文様は復元し得ない部分が多いが、おおよそ4単位に文様が描かれ、1つが正面の渦巻文で、他の3つは左右に流れた十字状のモチーフ構成を採り、部分的に円形竹管文を施す。それぞれの文様は上下の磨消縄文区画帯と接して一体化するが、直接的に左右のモチーフとは連結しないようである。十字状文はいわゆる米字文からの変形の様であるが、渦巻文はその出自が不明瞭である。

黒浜式から諸磯a式への変遷過程で、黒浜的な文様構造は多くの系統として継承されているが、沖田遺跡群の諸磯a式には肋骨文系統の土器群は存在していない。しかし、第7号住居跡埋甕には黒浜式から引き継がれる様々な系統要素が窺える。口頸部文様帯の1帯構成で、描出されるモチーフが上下の磨消縄文区画帯と一帯化している点に、大方の編年的位置付けが決まるであろう。しかし、モチーフが4単位構成であることは、この土器が本来的には4単位波状口縁の文様構成を継承するもので、平縁系の肋骨文の様な多単位構成を継承するものではないことを示している。米字文系のモチーフは複段に施文されるものが口頸部の一帯に集約される場合は、川白田遺跡第1号住(関根1999)、峯岸北遺跡第10号住(田中　1998)、稲荷丸4号住(羽生　1983)出土土器に見られる様に大半が上下左右に連結し変形木葉状入組文化して単位文化するか、複雑な変形をきたして、磨消縄文と単位文とのモチーフ上の反転が行われる場合が多い。しかし、第7号住居跡の埋甕は地文縄文上に明らかに磨消縄文部分をモチーフとして描いており、単位文化の傾向は同じであるとは言え、独立した大形の4単位化するところに特徴がある。斜行する十字状文は縦位区画規制の弛緩に要因が求められている(鈴木　1979、1994)が、大元のモチーフは塚屋遺跡第10号住の米字文土器(市川　1983)の様に整然とした多段の横帯区画モチーフの系統ではなく、円阿弥遺跡第10号住(金子　1991)の埋甕や、天神前遺跡第26号住(田中　1991)出土土器の様な、横帯区画の曖昧な大形菱形文系の要素を引くモチーフの系統上にあろう。この文様構成には、肋骨文からの影響も否定し得ない。また、4単位モチーフの中に、既に単独の渦巻文が成立していることは、諸磯b式渦巻文の成立要因の一端を担うことも考えられる。同様に単独の磨消渦巻文を施文する土器は、木戸先遺跡第247号土壙(高橋　1994)からも出土している。沖田遺跡の埋甕にみられる渦巻文のやや角を作る描出法や、全体的な構成には変形木葉状入組文の影響が強く窺われ、その成立要因として変形木葉状入組文の拡大化も想定しなければならない。大形菱形文的な文様構成と組みする渦巻文の系統として理解されるのか、あるいは全く別の変形木葉状入組文の巨大化か、または、傍らに諸磯b式の渦巻文が存在しているかは即断されないが、岡部町という地理的な要因や、谷井彪氏の鋸歯状文構成の検討(谷井　1998)等を参考にすると、進化論的な解釈のみに留まらずに、文様構成原理の残存性や系統性も考慮する必要性があるように思える。今後、さらに事例検討を通じて、これらの問題について検討していきたいと考えている。

2　古墳時代以降について

遺構について

古墳時代前期は、沖田III遺跡で竪穴状遺構５基、方形周溝墓７基が検出された。所属時期については、前述したように、周辺から、わずかながら、刷毛目の施された破片が出土することから推定したものである。

竪穴状遺構は、方形周溝墓に切られており、遺存状況は良くない。遺物も出土しておらず、焼土なども見られないためその性格については不明とせざるを得ない。

方形周溝墓も残りが悪く浅いものが多いが、密集して切り合っており、周溝の１箇所が切れるもの、全周するようなものなどにわけられるが、遺物が出土していないため詳細は不明である。

後期は、殆どその痕跡は見られない。ようやく遺構が見られるのは、７世紀後半になってからである。

住居跡は、沖田Ｉ遺跡で５軒、沖田III遺跡で10軒検出された。住居形態は方形で、規模は３～４ｍ台のものが中心である。最大は沖田Ｉ遺跡第１号住居跡で６ｍを超える。最小は沖田III遺跡第８号住居跡で2.8ｍである。柱穴は基本的に対角線上に４本であるがはっきりしないものもある。竈は、１軒を除いて、北西或いは北東面に設置される。位置は中央かやや右寄りである。貯蔵穴を持つものは少なく、15軒中３軒のみである。

竪穴住居跡で特徴的なのは、沖田Ｉ遺跡第６号住居跡で住居跡中央の床下から、甕の上半部が倒位で埋設された状態で検出された。これについては、所謂床下土壙の範疇で捉えていいものか、或いは別の意味を持つのか、今後の検討課題としたい。

同じく沖田Ｉ遺跡第８号住居跡は西から北側にかけて第10号溝が廻っている。東及び南側は調査できなかったが、第10号溝は第８号住居跡を囲んでいる可能性がある。また、第１号住居跡は排水用と考えられる溝があり、遺跡の標高が他の遺跡よりやや低いことからも、当時の生活環境の一端をあらわしているものと考えられる。

掘立柱建物跡は沖田Ｉ遺跡で７棟検出された。竪穴住居跡との重複がないこと、柱穴出土の遺物などから、多くは竪穴住居跡と同じ時期と考えておきたい。

平安時代は遺構が少なくなる。

竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡１棟が沖田Ｉ遺跡で検出された。竪穴住居跡は長方形で、竈は北東壁のかなり右側に寄って設置される。

道路状遺構が沖田III遺跡で検出された。幅１ｍほどで底面にはピットが並ぶ。覆土は硬く、特に底面のピット状部分はかなり固くしまっていた。遺構の形状からは、やや新しくなるとも考えられるが、硬くしまった覆土から出土する遺物は、須恵器及び土師器細片であることから、平安時代の遺構と判断された。

中世以降は河川跡を含む低地部分の埋没が進んだようである。埋積土の中に常滑産の陶器片などが若干認められる。

以上のように沖田遺跡群では、古墳時代前半に方形周溝墓が造られたが、６世紀には人々の生活の痕跡は確認されない。以後、７世紀後半に集落が営まれる。この時期が集落の最も安定した時期となる。８世紀には遺構は認められず、９世紀以後わずかに住居跡などが見られる。各遺跡は面積も広いとはいえず、周辺の他の遺跡の立地よりは若干低いなどの違いが見られ、当該時期の一般的な状況をそのまま表しているとは必ずしも限らないと思われる。

住居跡出土の土器について

次に、集落の中心時期である７世紀後半の住居跡出土土器について見てみたい。

古墳時代の住居跡は、沖田Ｉ遺跡で５軒、沖田III遺跡で10軒検出された。遺物の出土量は少なく、器種も揃っていないため、ここでは土師器坏を対象とする。

出土した坏は主に３分類される。

ひとつは模倣坏であり、III―１住の１などが該当する。２つめは有段坏であり、III―12住の６などが該当する。３つめは内屈口縁坏で、Ｉ―１住などが該当する。

坏の出土量が比較的多い沖田III遺跡第１号住居跡、第12号住居跡、第11号住居跡、第16号住居跡を中心に検討する。

第１号住居跡からは模倣坏、有段坏、皿形の坏などが出土している。模倣坏は体部が扁平化しており、口縁部は外反の度合いが強い。口縁部と体部の境は、口縁部を横撫ですることによって段を作り出しているが、体部の箆削りによって稜線化しているものも見られる。口径は12cm台が中心である。有段坏は、体部が浅く口縁部の段は弱い。口縁部と体部の境は箆削りによって稜線化している。口径は12cm台である。坏は全体的に段の作りは簡略化されているのが特徴である。

第12号住居跡からは模倣坏と有段坏が出土している。模倣坏は体部が浅く口縁部の立ち上がりは第１号住居跡に比べて短い。また、口縁部と体部の境は稜線化している。口径は11cm台のものが多い。これらの特徴から第１号住居跡より後出するものと考えられる。有段口縁坏は１点であるが推定口径12.4cmと模倣坏よりやや大きめで、体部と口縁部の境及び口縁部の段は出土している中では明瞭である。

第11号住居跡は模倣坏と有段口縁坏が出土している。模倣坏は口径12cm前後で体部は扁平化が進んでおり、平底化しているものもみられる。有段口縁坏は破片が小さいが、同じく平底化が進んでいる。

第16号住居跡は、模倣坏は推定口径13cmとやや大きめであるが平底化している。有段坏は、口径12cm前後で口縁部の段は弱く、段が２段のものが見られるが沈線となっており、平底化している。

沖田Ｉ遺跡では第１号住居跡、第６号住居跡、第８号住居跡、第19号住居跡から坏が出土しているが量は極めて少ない。

第１号住居跡からは内屈口縁坏と有段口縁坏が出土している。内屈口縁坏は推定口径12.6cmで口縁部はやや直立気味である。有段口縁坏は小破片であるが、口唇部が大きく外反し推定口径10.2cmと小型化している。また、第28号土壙からは第１号住居跡と極めて類似の遺物が出土している。第28号土壙は第１号住居跡を切り込んでいることから、出土遺物も第１号住居跡のものである可能性が極めて高い。第28号土壙の遺物が第１号住居跡のものと考えるなら、出土している坏は口径14.2cmであり第１号住居跡のものと大小の組み合わせとして捉えられる。

第６号住居跡からは模倣坏１点と有段口縁坏１点が出土している。いずれも体部は扁平化しており、有段坏は段が弱くなっている。口径は12cmほどである。沖田III遺跡第11号住居跡と同時期と思われる。

第８号住居跡は口縁部が大きく開き口縁部上半が肥厚する坏が２点出土している。１点は黒色処理される。類例は少ないが、県北方面で似通ったものがいくつかあるものと思われる。強いて類例を求めるなら、若宮台遺跡第64号住居跡、山根遺跡Ｂ地点第43号住居跡等に共通性があると思われる。

第19号住居跡の口縁部が長く内傾して立ち上がる坏は６世紀段階から少量ではあるが継続して見られるものである。

各住居跡の前後関係については、模倣坏の形態がこの中ではしっかりしていることを持って沖田III遺跡第１号住居跡が一番古いものと考えられる。沖田III遺跡第12号住居跡、第11号住居跡、第16号住居跡は、体部の扁平化が進んでおり、近接した時期と思われるが、あえて分けるなら、体部が平底化しているものが多い第11号住居跡、第16号住居跡をより新しい段階と考えたい。沖田Ｉ遺跡第１号住居跡は、内屈口縁坏が出現しており、一番新しい段階である。沖田Ｉ遺跡第６号住居跡は、平底化の度合いから沖田III遺跡第11号住居跡と同時期と考えておきたい。沖田Ｉ遺跡第８号住居跡は判断に苦しむが、体部が扁平化している事から沖田III遺跡第１号住居跡と近接した時期と考えておきたい。

次にこれらの住居跡の時期について、他遺跡の成果と照らし合わせてみたい。比較する遺跡として今井川越田遺跡と砂田前遺跡を対象とする。

まず、沖田III遺跡第１号住居跡は今までの検討から、模倣坏に関してはやや古い様相が窺えるものの、有段

坏などの坏全体の様相からはやや新しくなるものと考えたい。今井川越田遺跡VII期に、砂田前遺跡のIV期新段階に相当するものと考えられる。沖田III遺跡第12号住居跡、第11号住居跡、第16号住居跡は模倣坏が小型化し，口径が11cm台となっていることから今井川越田遺跡第VIII期に相当すると考えられる。砂田前遺跡では第Ⅴ期古段階か、あるいは第IV期新段階との間にもう１段階入るものと思われる。沖田Ⅰ遺跡第１号住居跡は、今井川越田遺跡の中には該当するものは見られない。有段口縁坏は口径が10.2cmと小型化しており、国道17号バイパス砂田前遺跡第９号住居跡に類例が求められる。内屈口縁坏は口縁部の立ち上がりがほぼ直立しており、強く内側に屈曲するものではない。この特徴から砂田前遺跡Ⅴ期新段階に該当するものと考えられる。

以上、雑駁であるが住居跡出土の土器について検討した。この他に、今回調査された遺跡群の中での沖田遺跡の位置付け等について、検討しなければならないことが多々残ってしまったが、大寄遺跡、宮西遺跡の整理が進み、具体的な様相が明らかになっていく中で改めて検討することとしたい。

参考文献

赤熊浩一・富田和夫　1985　『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集

赤熊浩一他　1988　『将監塚・古井戸－歴史時代編II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第71集

礒崎　一　1995　『今井川越田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第177集

市川　修　1983　『塚屋・北塚屋』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第25集

井上尚明他　1986　『将監塚・古井戸－古墳・歴史時代編Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第64集

岩瀬　譲　1991　『樋詰・砂田前』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第102集

岩瀬　譲　1998　『地神／塔頭』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第193集

上野真由美　1997　『広木上宿遺跡－縄文時代編』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第185集

梅沢太久夫他　1981　『六反田遺跡』岡部町六反田遺跡調査会

大屋道則　1996　『菅原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第169集

鬼形芳夫　1986　『内手遺跡』内手遺跡調査会

柿沼幹夫・小久保徹　1978　『東谷・前山２号墳・古川端』埼玉県遺跡発掘調査報告　第16集　埼玉県教育委員会

金子直行　1991　『竹之花・下大塚・円阿弥遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団第105集

栗原文蔵・佐藤忠雄　1976　『水窪・新井遺跡の調査』埼玉県大里郡岡部町教育委員会

栗原文蔵・佐藤忠雄　1977　『水窪遺跡の調査』埼玉県大里郡岡部町教育委員会

恋河内昭彦　1996　『辻堂遺跡Ⅰ』児玉町文化財調査報告書　第19集　埼玉県児玉町教育委員会

小久保徹他　1978　『東谷・前山２号墳・古川端』埼玉県遺跡発掘調査報告書　第16集　埼玉県教育委員会

駒宮史朗他　1979　『雷電下・飯玉東』埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集

佐々木幹雄他　1980　『大久保山Ⅰ』早稲田大学本庄校地文化財調査室

佐藤好司他　1989　『諏訪遺跡（Ｂ地点）・久城前遺跡（Ｂ地点）発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告　第15集

佐藤康二　1998　『砂田前遺跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第198集

佐藤忠雄　1979　『大寄Ｂ遺跡・西浦北遺跡』埼玉県大里郡岡部町教育委員会

佐藤忠雄他　1978　『後榛沢遺跡群の調査』埼玉県大里郡岡部町教育委員会

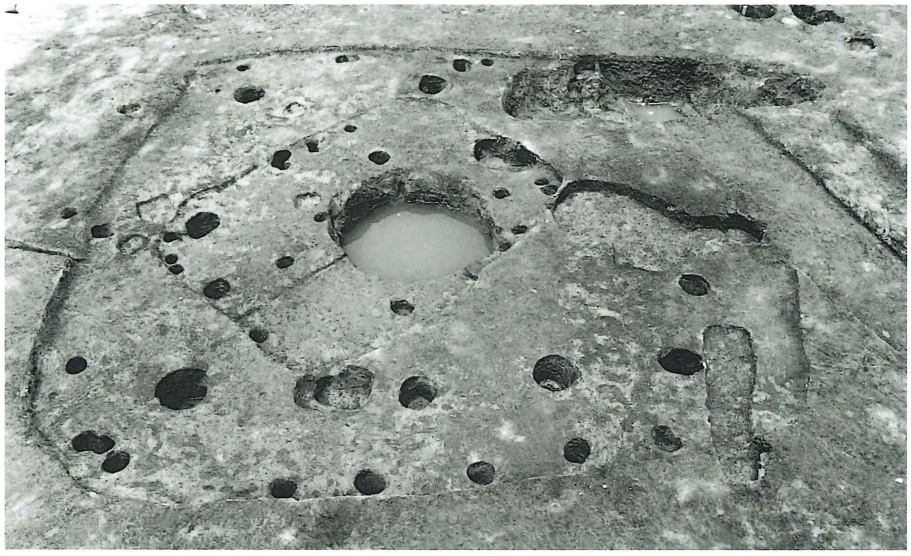
末木啓介・田中広明　1997　『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第190集

鈴木徳雄　1994「諸磯ａ式の文様帯と施文域－文様帯の生成と変容－」『縄文時代』第５号
鈴木徳雄　1979『白石城』埼玉県遺跡調査会報告書第36集
関根慎二　1999「群馬県における諸磯ｂ式土器の細分」『第12回縄文セミナー　前期後半の再検討』縄文セミナーの会
高橋　誠　1994『木戸先遺跡』印旛郡市文化財センター
瀧瀬芳之　1997『今井川越田遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第191集
立石盛嗣　1983『後張－本文編Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第26集
田中広明　1992『新屋敷東・本郷前東』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第111集
田中和之　1991『峯岸北遺跡』大宮市遺跡調査会報告第５集
田中和之　1991『天神前遺跡』蓮田市文化財調査報告書第17集
谷井　彪　1998「菱形文の成立と変形、そしてその諸相」『研究紀要第14号』埼玉県埋蔵文化財調査事業団
徳山寿樹　1997『金佐奈遺跡－Ａ１地点の調査－』児玉町文化財調査報告書　第24集
富田和利・知久裕昭　1998『常盤町東遺跡』埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書　第57集
利根川章彦　1998『御林下遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第223集
利根川章彦他　1998『樋の上／皇山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第205集
鳥羽政之　1988『上原遺跡』岡部町埋蔵文化財調査報告書　岡部町遺跡調査会
鳥羽政之・平田重之　1991『新田遺跡』岡部町遺跡調査会発掘調査報告書第３集
鳥羽政之　1995『中宿遺跡』埼玉県岡部町埋蔵文化財調査報告書　第１集
鳥羽政之　1997『中宿遺跡Ⅱ』埼玉県大里郡岡部町遺跡調査会発掘調査報告書　第５集
鳥羽政之・宮本直樹　1997『滝下遺跡』埼玉県岡部町埋蔵文化財調査報告書第２集
鳥羽政之他　1997『熊野遺跡』埼玉県大里郡岡部町遺跡調査会発掘調査報告書　第６集
中島　宏他　1980『伊勢塚・東光寺裏』埼玉県遺跡発掘調査報告第26集
長滝歳康　1991『白石古墳群・羽黒山古墳群』美里町遺跡発掘調査報告書　第７集
中村倉司他　1979『宇佐久保遺跡』埼玉県遺跡調査会報告書　第38集
中村倉司他　1980『瓸薤神社前遺跡・一本松古墳』埼玉県遺跡調査会報告書　第39集
中村倉司　1989『白山遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査報告　第17集
西口正純　1994『矢島南遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第149集
長谷川勇他　1987『社具路遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告　第５集
羽生淳子　1983『稲荷丸北遺跡』ニューサイエンス社
伴瀬宗一　1996『今井川越田遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第178集
平田重之　1993『原ヶ谷戸遺跡』岡部町遺跡調査会発掘調査報告書　第４集
平田重之　1998『上宿遺跡』埼玉県大里郡岡部町遺跡調査会発掘調査報告書　第７集
増田一裕　1987『本庄住宅団地内遺跡群発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告　第11集
増田一裕　1989『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』本庄市埋蔵文化財調査報告　第９集
増田一裕　1990『山根遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告　第18集
増田逸郎　1975『千光寺』埼玉県遺跡調査会報告　第27集
増田逸郎他　1980『甘粕山』埼玉県遺跡発掘調査報告　第30集
大和　修　1983『若宮台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第28集
山本　靖　1996『広木上宿遺跡－古代・中世編』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第170集
横川好富他　1978『中堀・耕安地・久城前』埼玉県遺跡発掘調査報告書　第15集

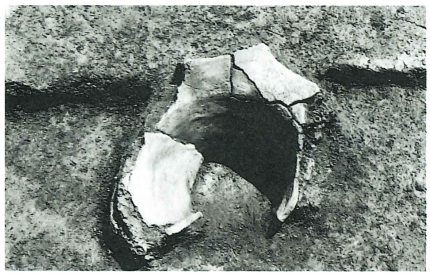
写真図版

沖田Ⅰ遺跡航空写真

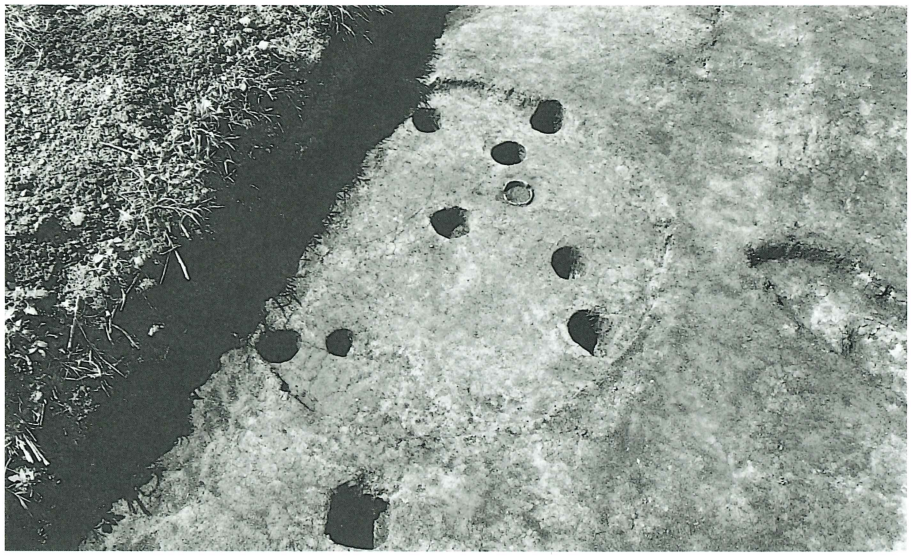
沖田Ⅰ遺跡調査区全景（東から）



沖田Ⅰ遺跡第３号・第９号住居跡

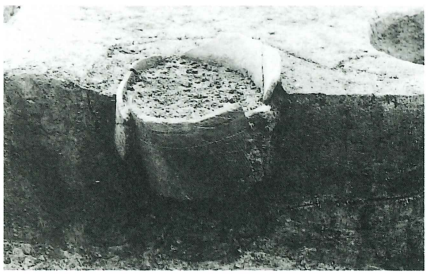


埋甕検出状況



沖田Ⅰ遺跡第７号住居跡

埋甕検出状況



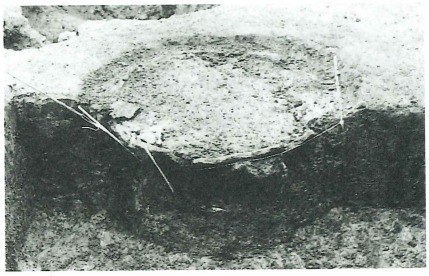
埋甕断面

沖田Ⅰ遺跡第５号住居跡

埋甕Ⅰ検出状況

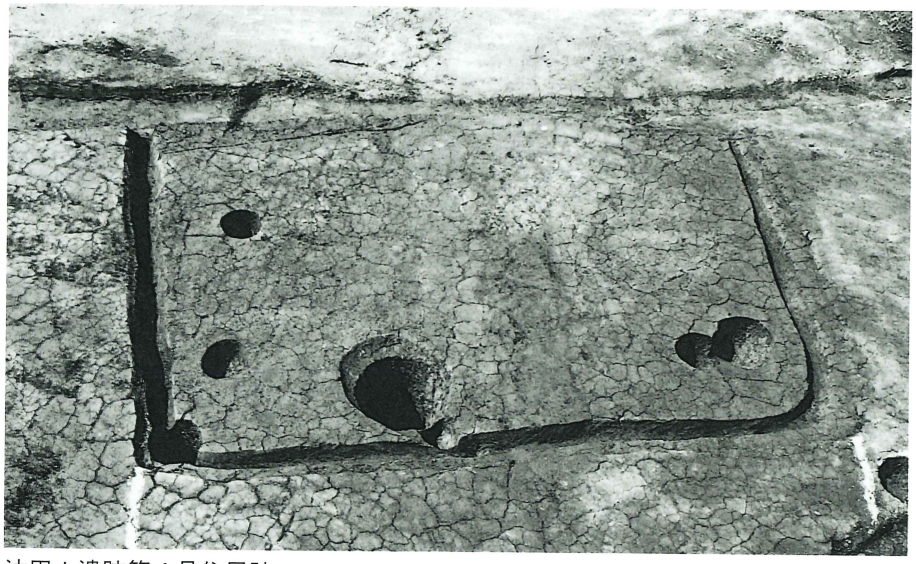
埋甕Ⅰ断面

埋甕２検出状況

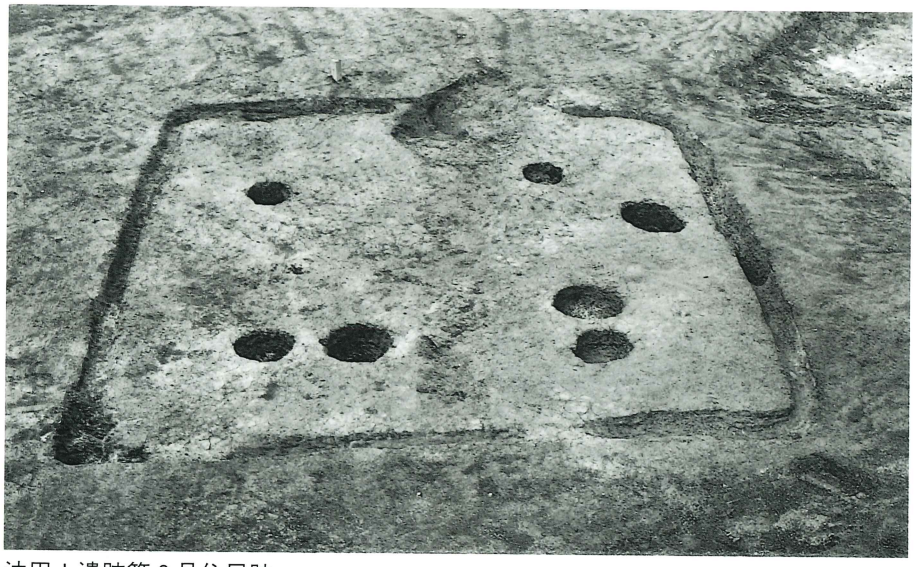


埋甕２断面

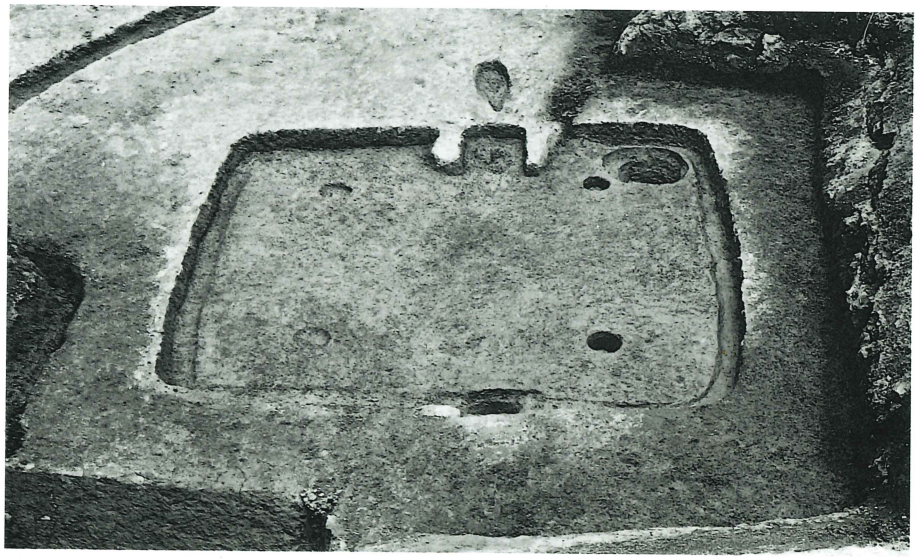
沖田Ⅰ遺跡第10号・第11号住居跡



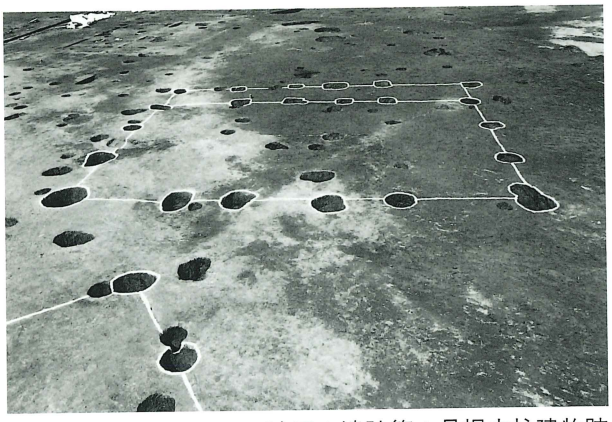
沖田Ⅰ遺跡第４号住居跡



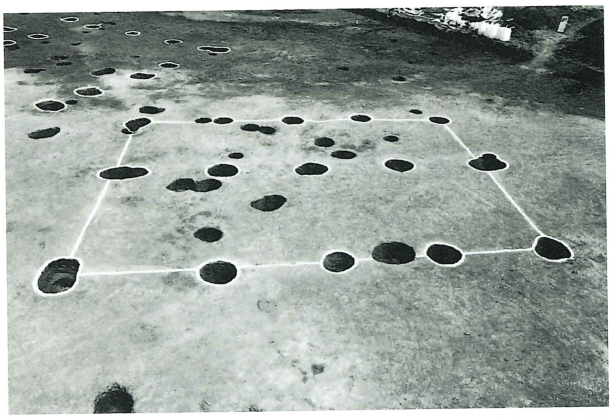
沖田Ⅰ遺跡第６号住居跡



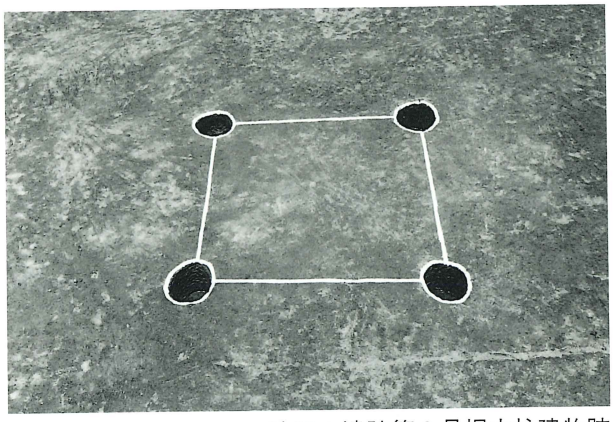
沖田Ⅰ遺跡第８号住居跡



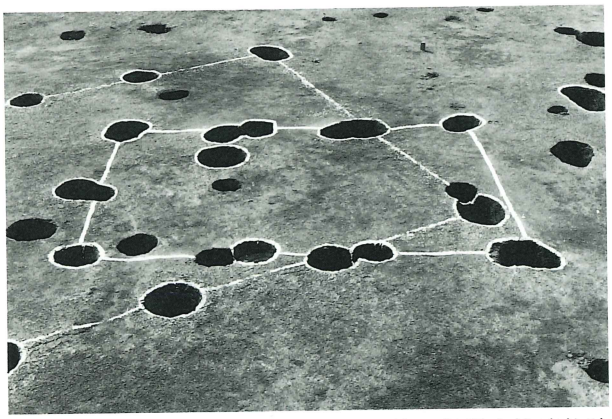
沖田Ⅰ遺跡第Ⅰ号掘立柱建物跡



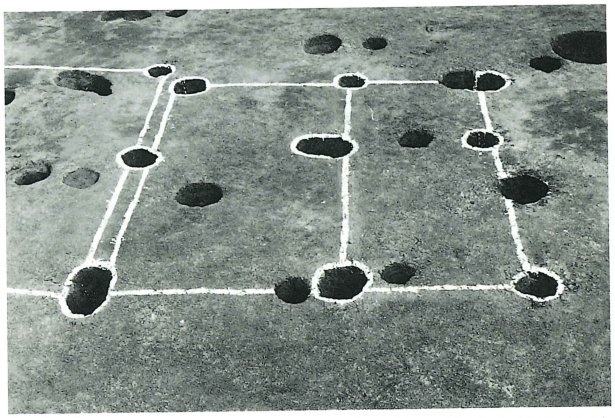
沖田Ⅰ遺跡第2号掘立柱建物跡



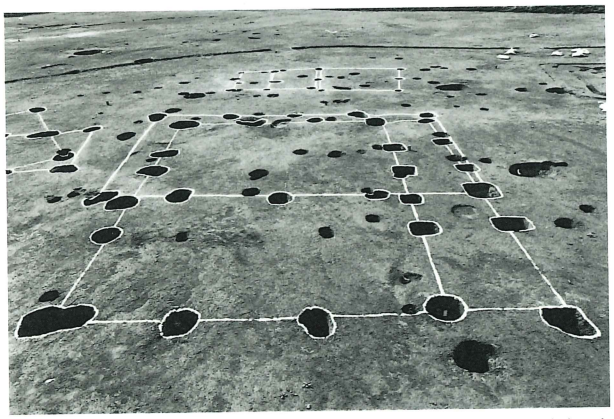
沖田Ⅰ遺跡第3号掘立柱建物跡



沖田Ⅰ遺跡第4号掘立柱建物跡

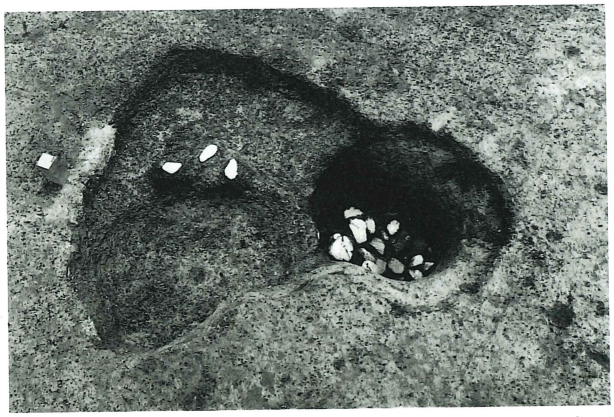


沖田Ⅰ遺跡第5号掘立柱建物跡



沖田Ⅰ遺跡第Ⅰ号・第7号掘立柱建物跡

沖田Ⅰ遺跡第Ⅰ号井戸跡



沖田Ⅰ遺跡第11号土壙遺物出土状況

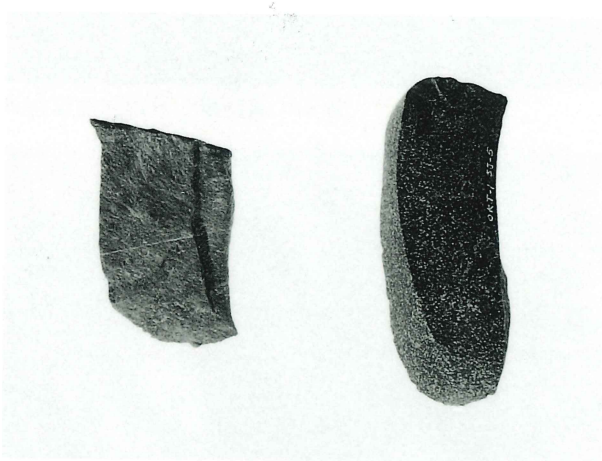
沖田Ⅰ遺跡第5号住居跡1

沖田Ⅰ遺跡第5号住居跡2

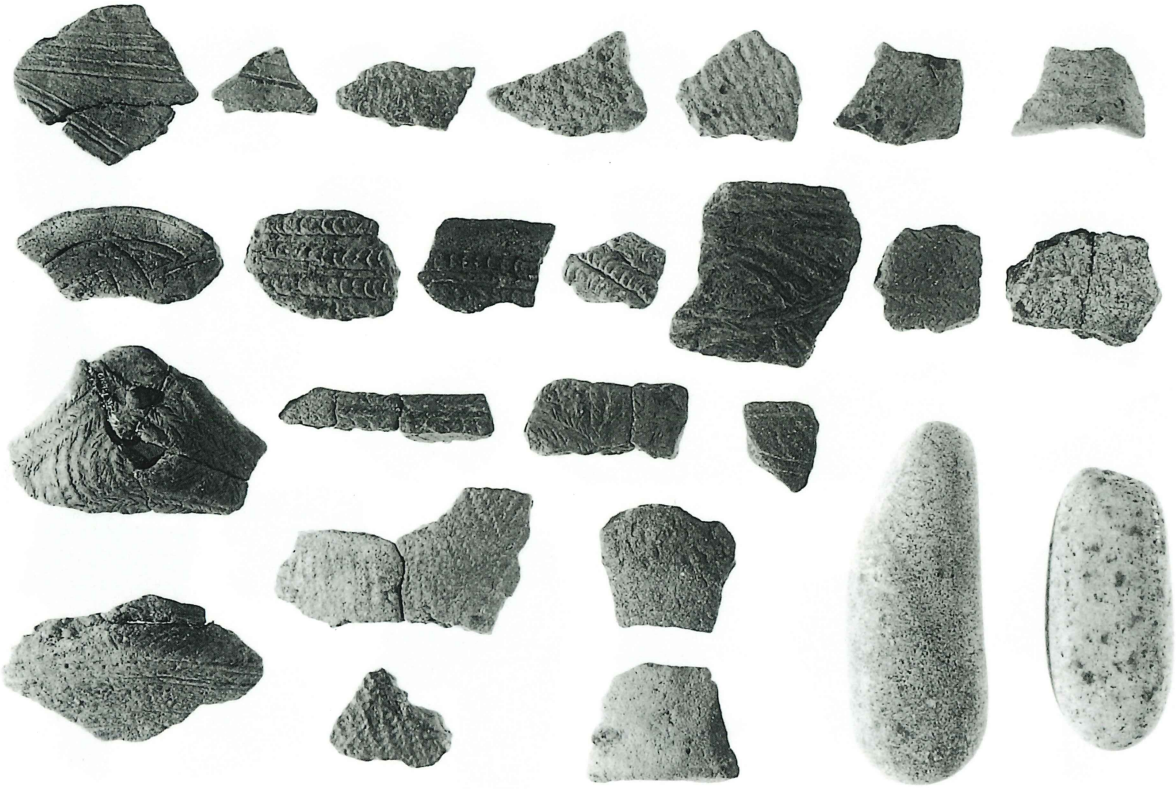
沖田Ⅰ遺跡第7号住居跡1

沖田Ⅰ遺跡第9号住居跡1

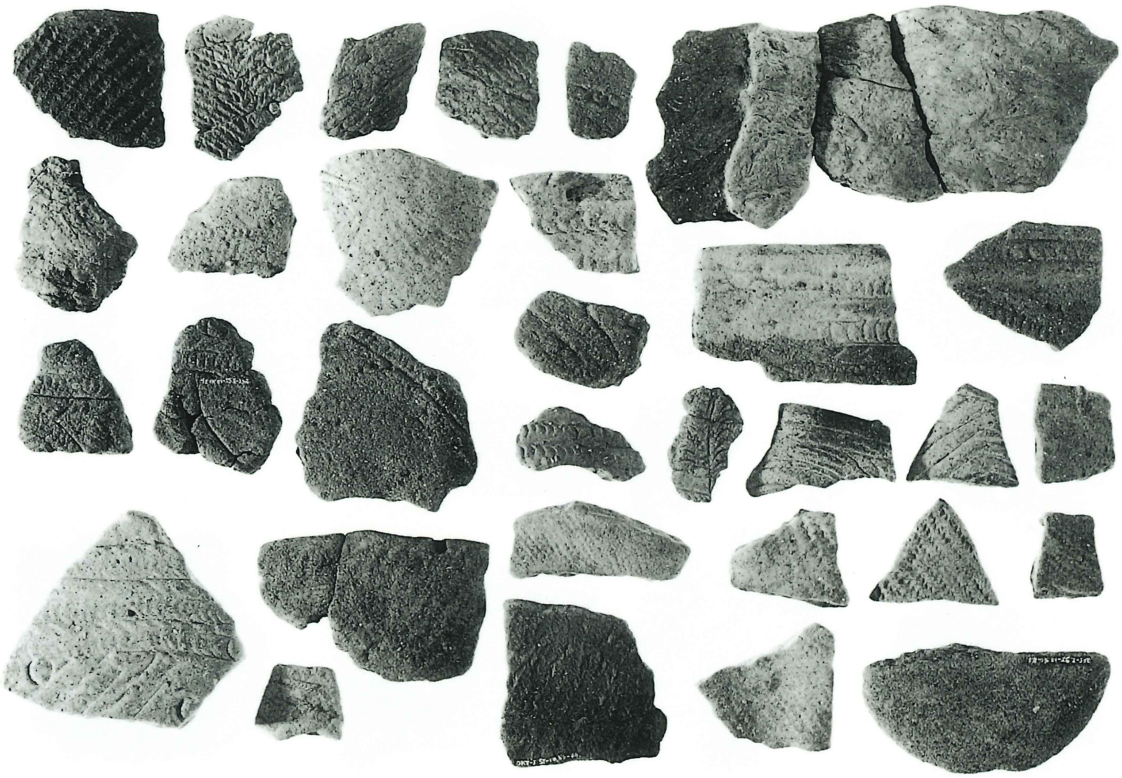
沖田Ⅰ遺跡第9号住居跡出土遺物



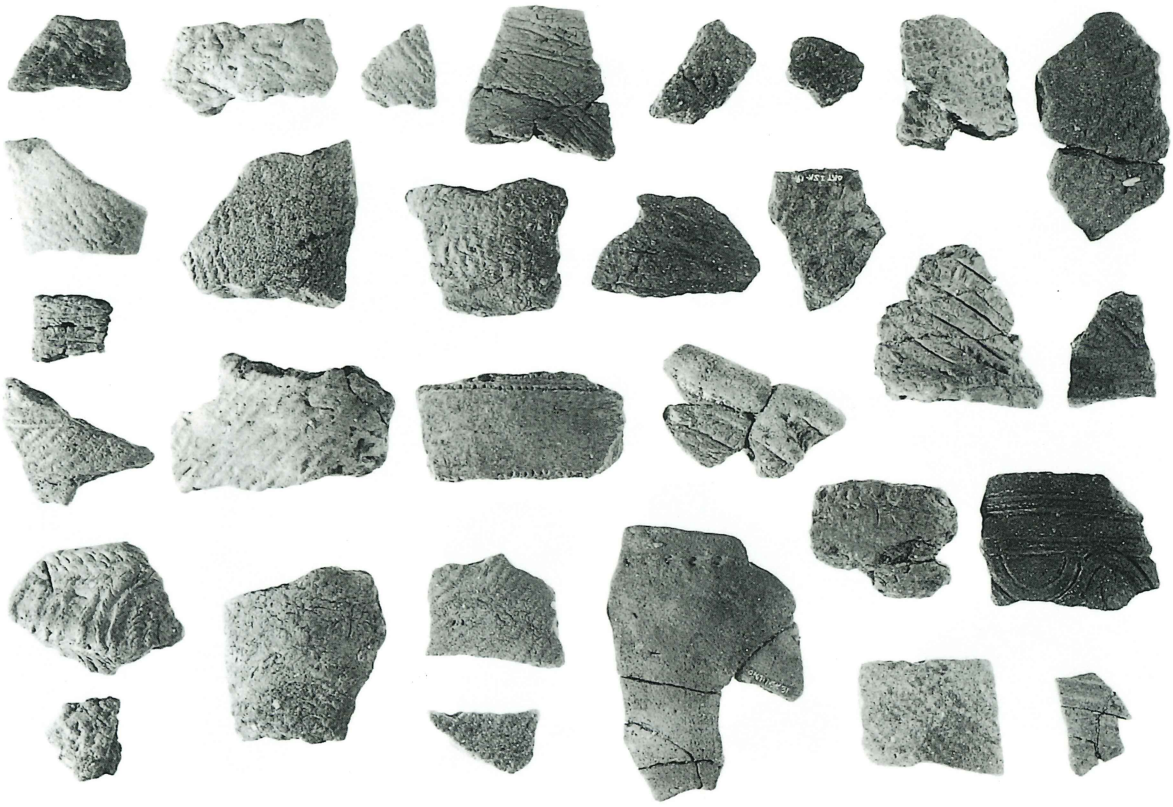
沖田Ⅰ遺跡第5号住居跡出土遺物



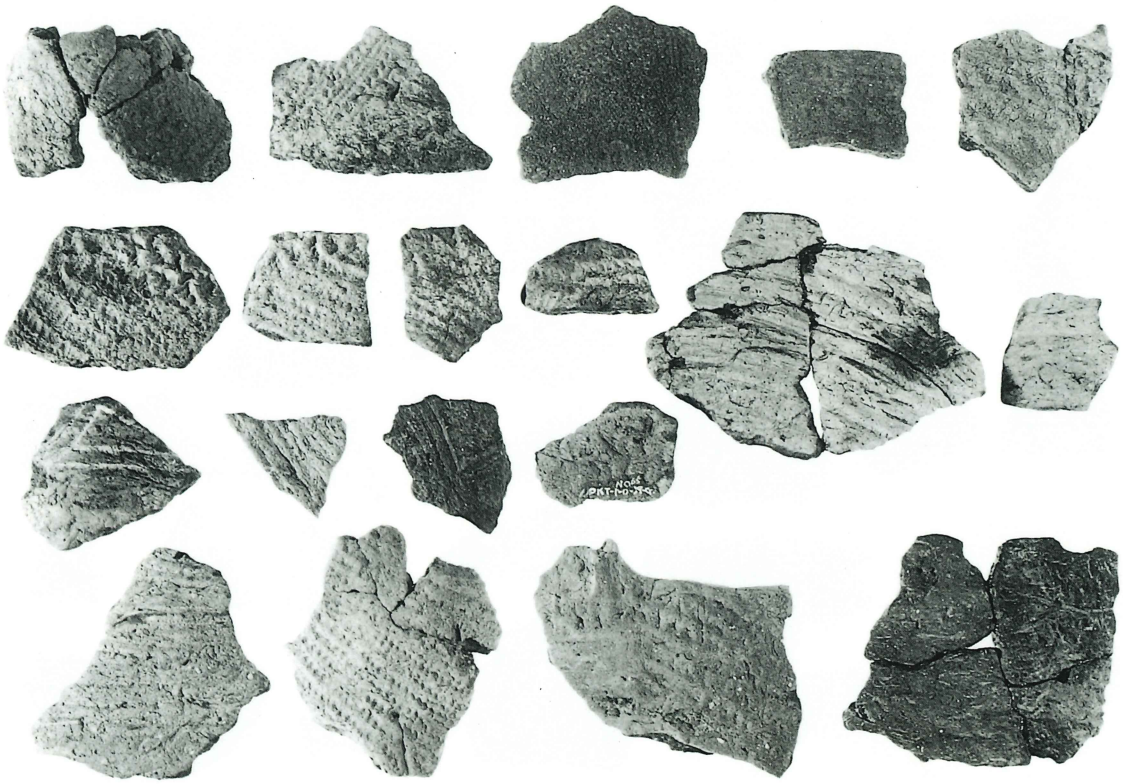
沖田Ⅰ遺跡第３号住居跡出土遺物



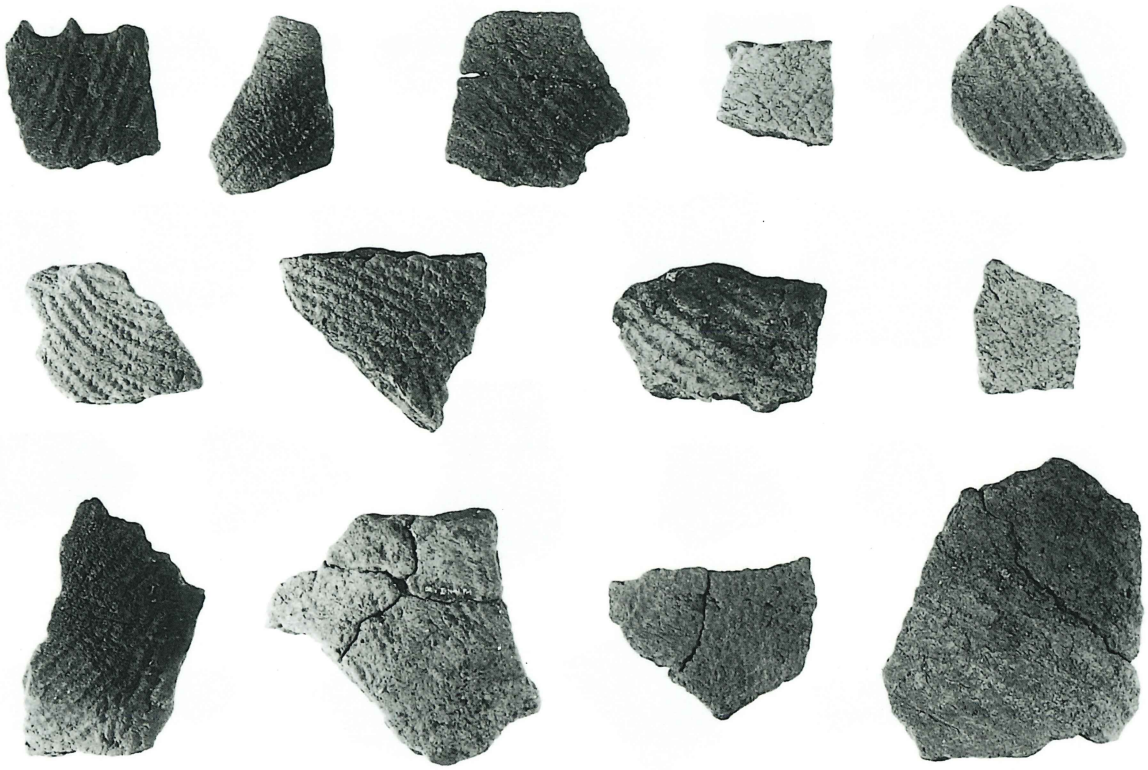
沖田Ⅰ遺跡第10号住居跡出土遺物



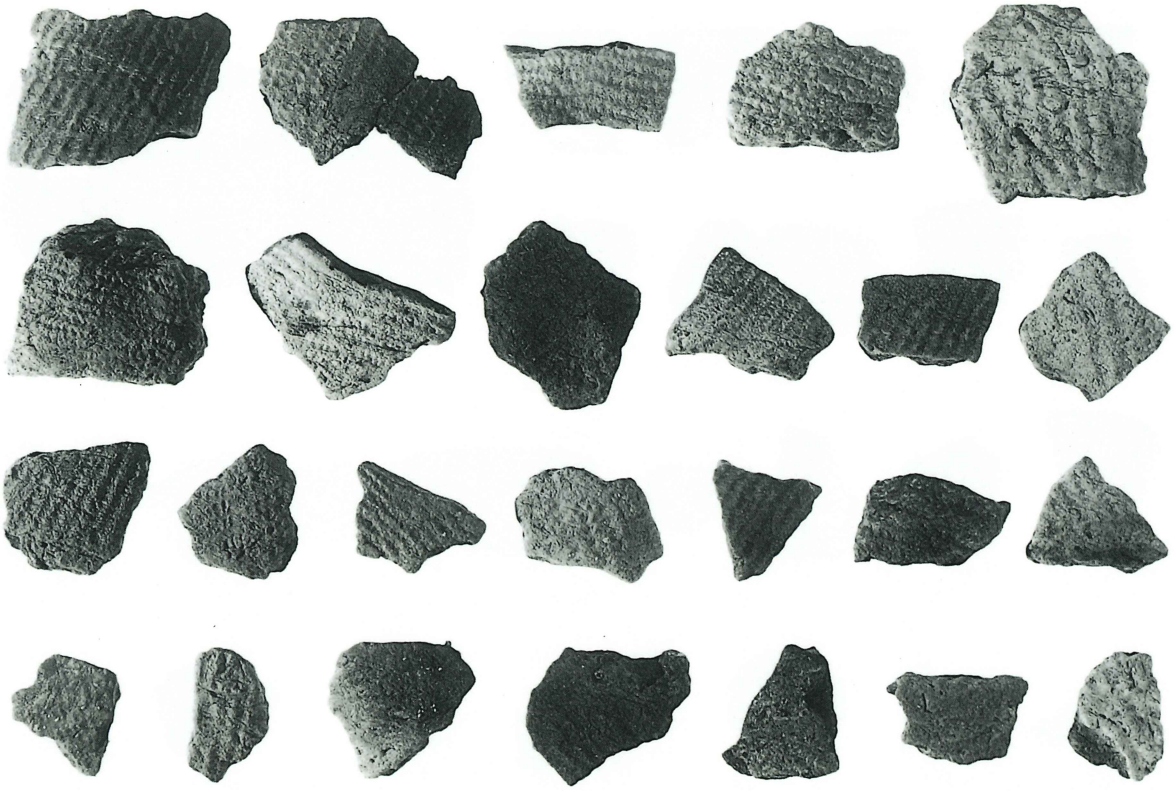
沖田Ⅰ遺跡土壙出土遺物



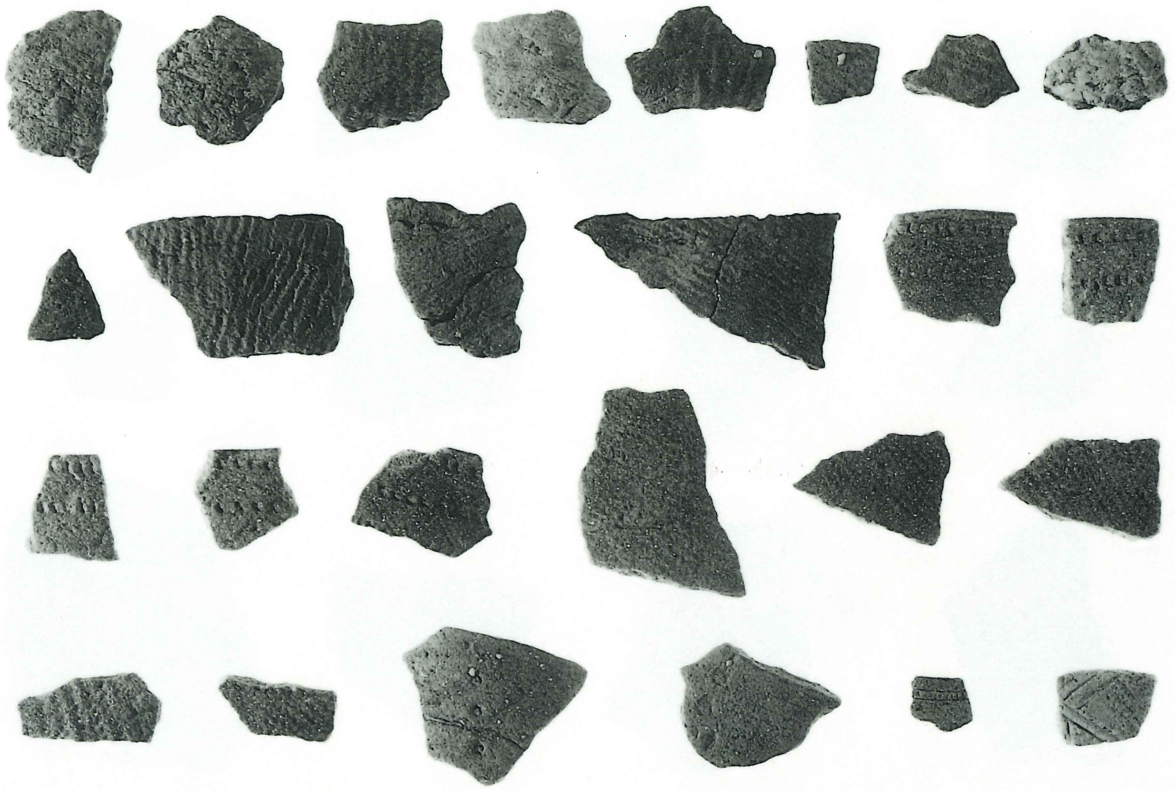
沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(1)



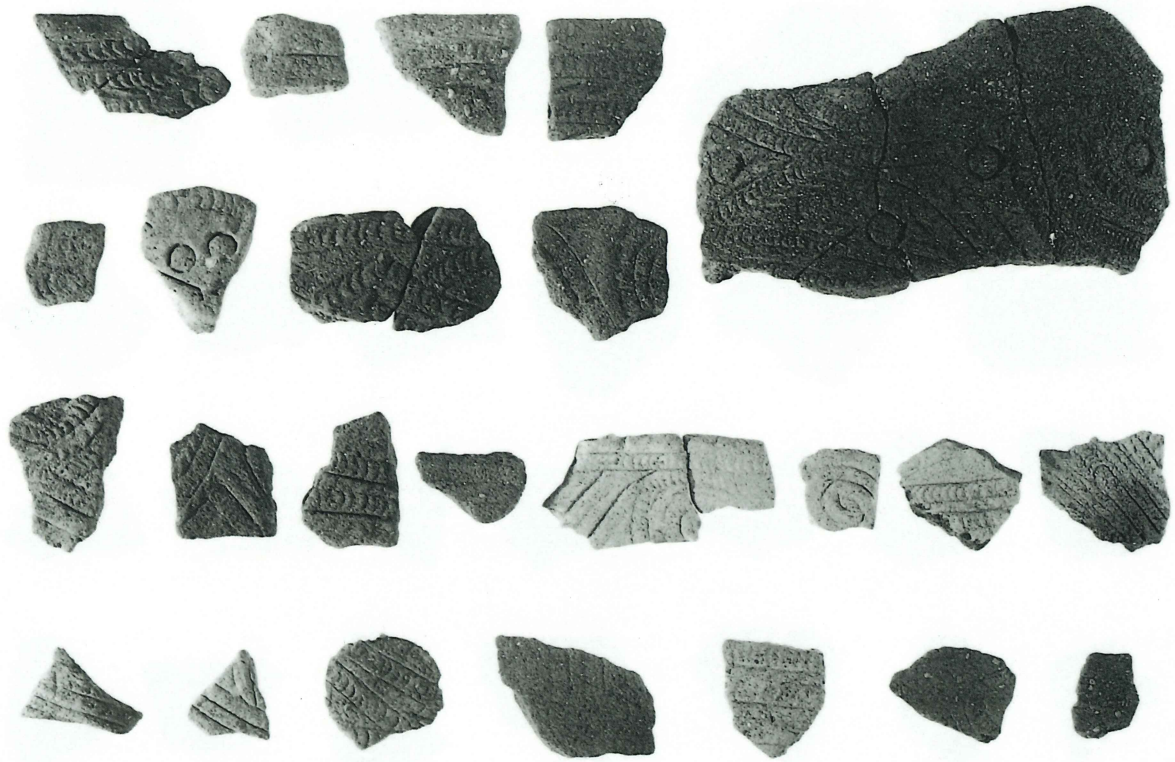
沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(2)



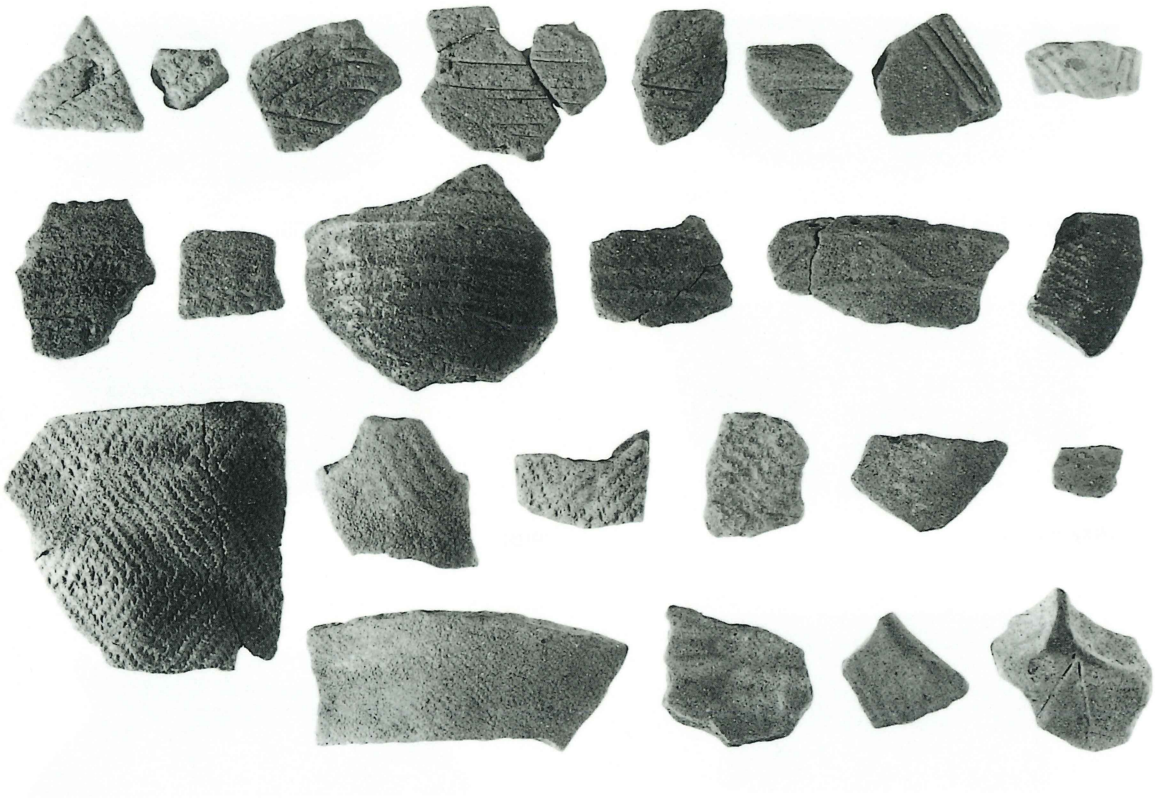
沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(3)



沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(4)



沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(5)

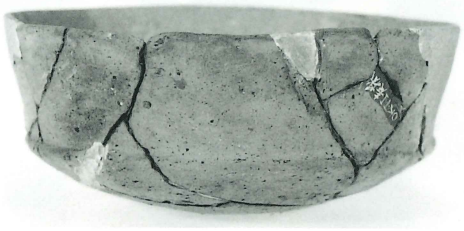


沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(6)

沖田Ⅰ遺跡グリッド出土遺物(7)

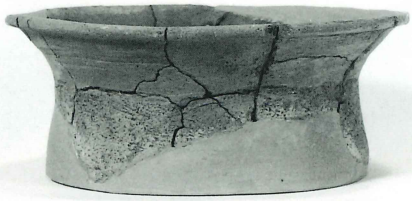
沖田Ⅰ遺跡第８号住居跡１

沖田Ⅰ遺跡第３号溝跡36



沖田Ⅰ遺跡グリッド１

沖田Ⅰ遺跡グリッド７



沖田Ⅰ遺跡第28号土壙14

沖田Ⅰ遺跡第６号住居跡３

沖田Ⅰ遺跡グリッド11

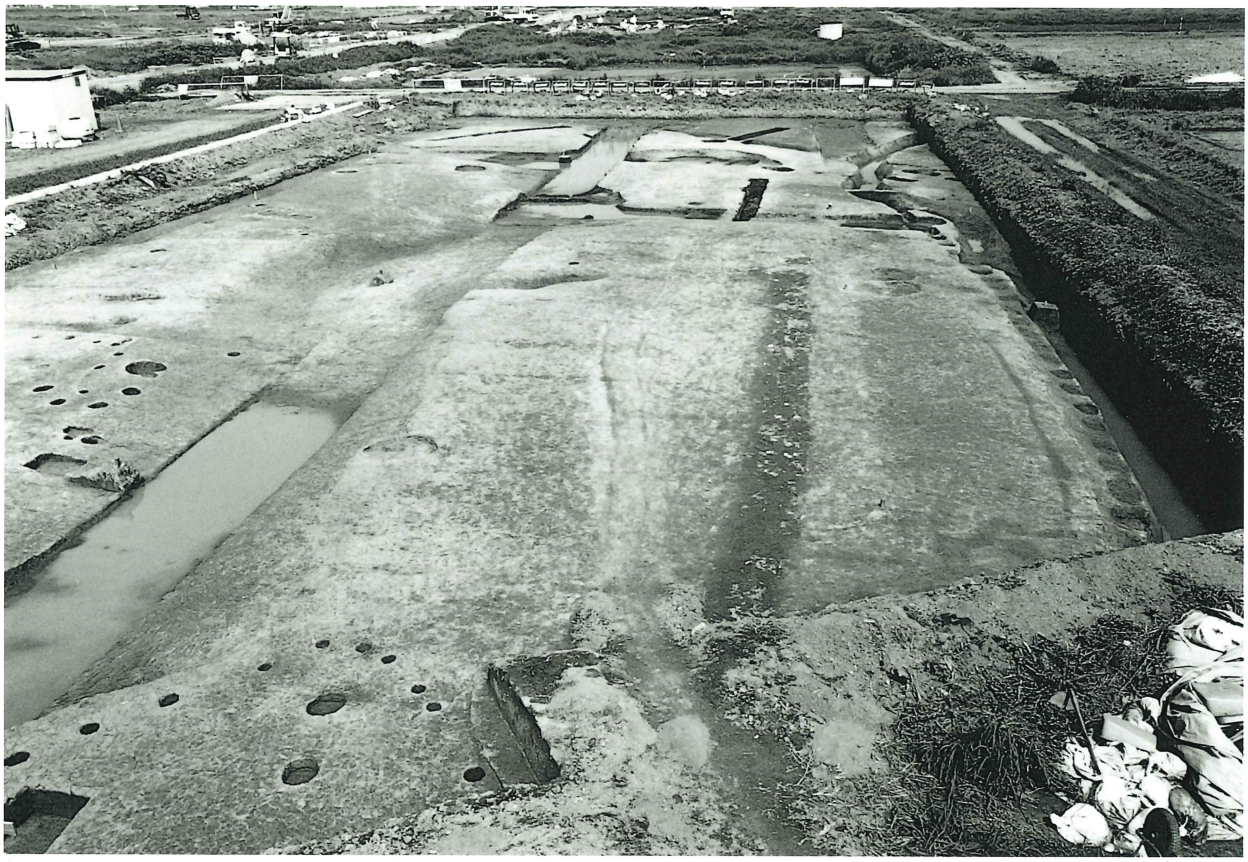
沖田Ⅰ遺跡第１号住居跡４

沖田Ⅰ遺跡第８号住居跡４

沖田Ⅱ遺跡調査区（東から）

沖田Ⅱ遺跡グリッド出土遺物

沖田Ⅲ遺跡全景（東から・平成８年度）

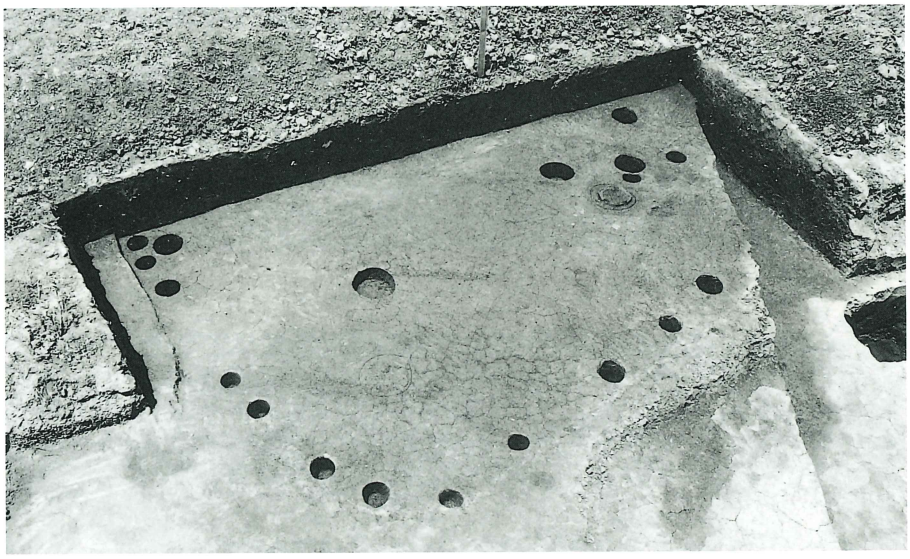


沖田Ⅲ遺跡全景（西から・平成９年度）

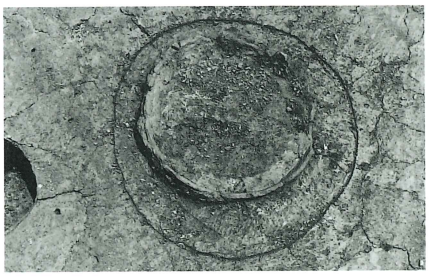
沖田Ⅲ遺跡第17号住居跡

埋甕検出状況

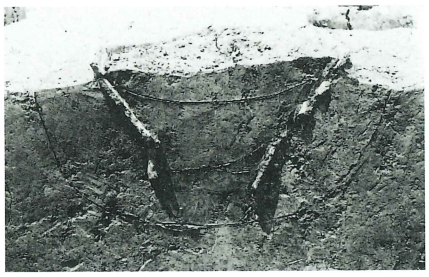
埋甕断面



沖田Ⅲ遺跡第20号住居跡



埋甕検出状況

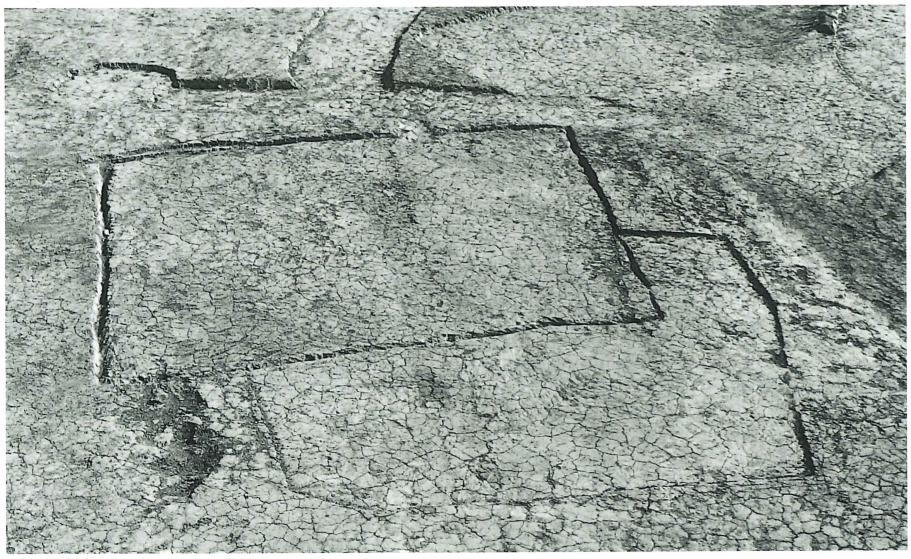


埋甕断面

沖田Ⅲ遺跡第18号住居跡

沖田Ⅲ遺跡第１号住居跡

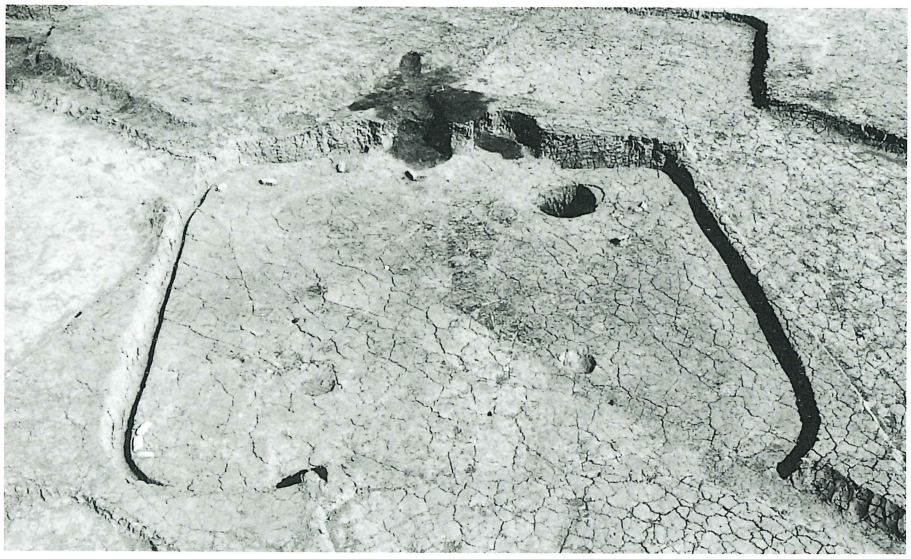
沖田Ⅲ遺跡第３号住居跡



沖田Ⅲ遺跡第５号・第６号住居跡

沖田Ⅲ遺跡第８号住居跡

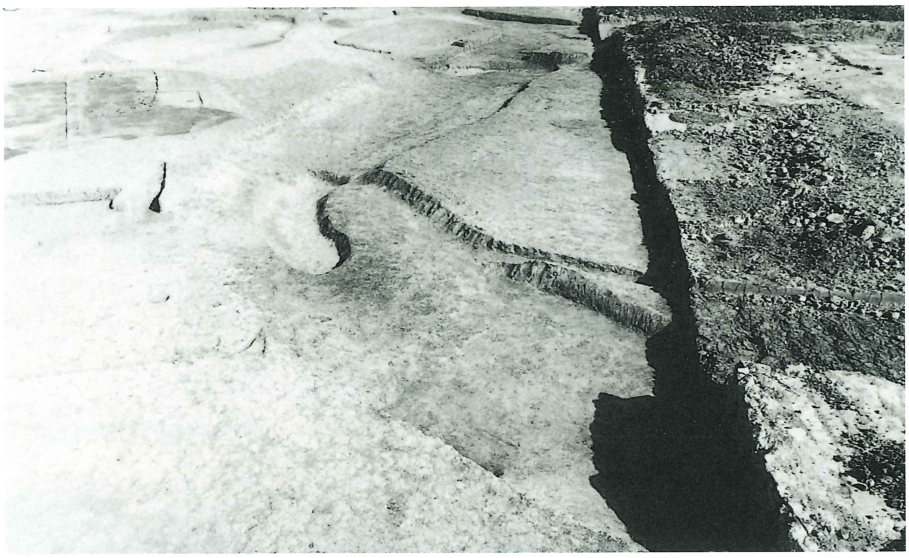
沖田Ⅲ遺跡第11号住居跡



沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡

沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡

沖田Ⅲ遺跡第19号住居跡



沖田Ⅲ遺跡第１号方形周溝墓

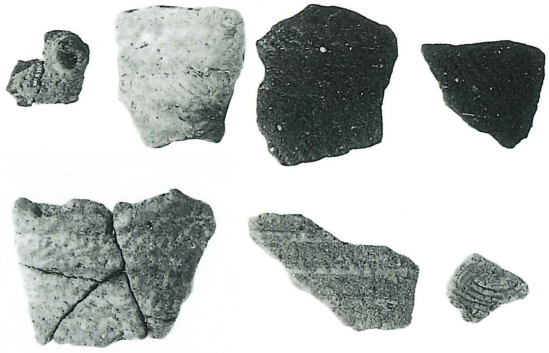
沖田Ⅲ遺跡第２号方形周溝墓

沖田Ⅲ遺跡第５号方形周溝墓

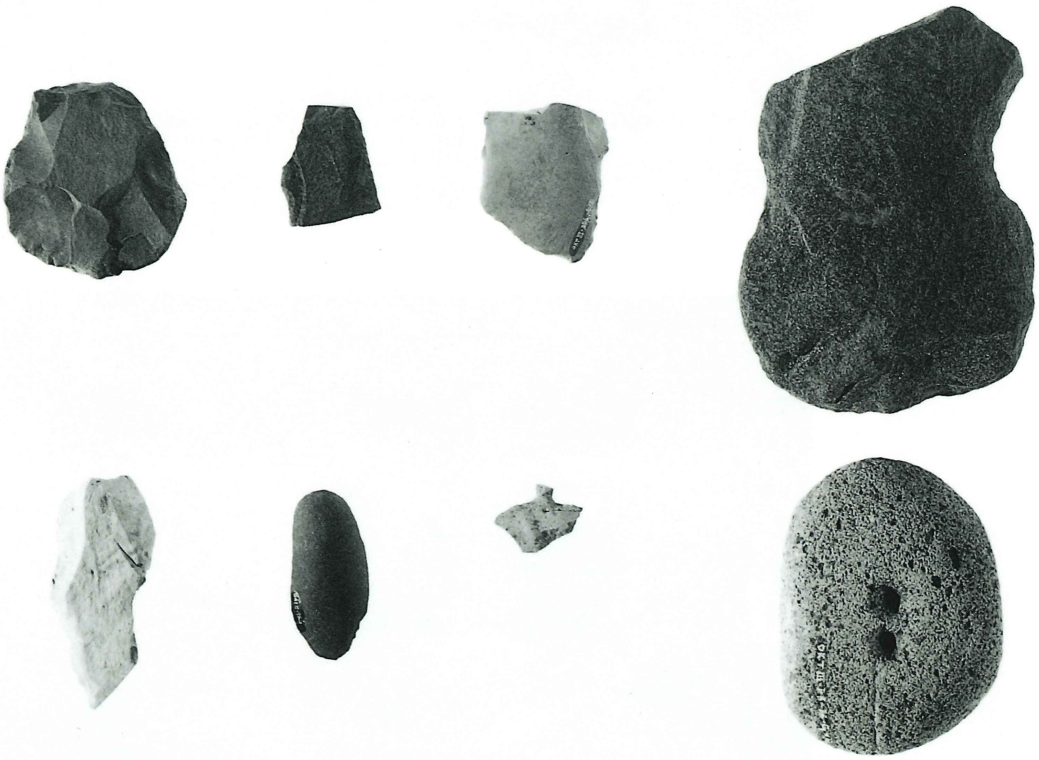
沖田Ⅲ遺跡第20号住居跡Ⅰ

沖田Ⅲ遺跡第20号住居跡出土遺物

沖田Ⅲ遺跡第17号住居跡出土遺物



沖田Ⅲ遺跡グリッド・その他出土土器

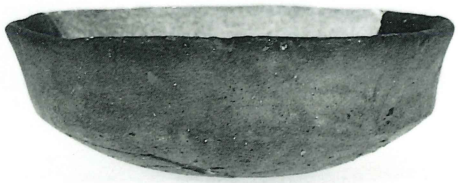


沖田Ⅲ遺跡グリッド・その他出土石器

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡Ⅰ

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡2

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡3



沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡4

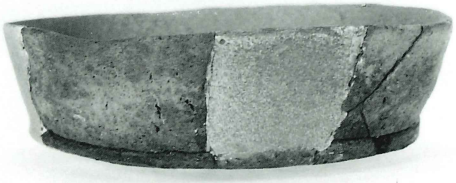
沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡5

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡6

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡7

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡8

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡17



沖田Ⅲ遺跡第8号住居跡Ⅰ

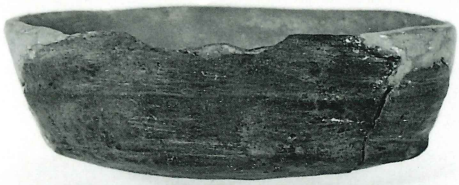
沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡2

沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡3

沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡 4

沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡 6

沖田Ⅲ遺跡第12号住居跡 8



沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡 2

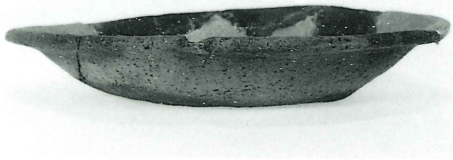
沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡 3

沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡 4

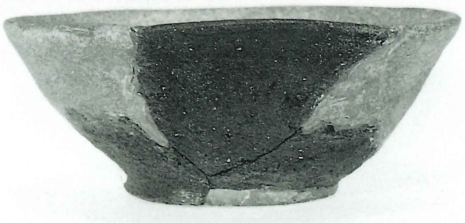
沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡 5

沖田Ⅲ遺跡第19号住居跡 1

沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡21



沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡25



沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡26

沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡27

沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡24

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡18

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡19

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡20

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡23

沖田Ⅲ遺跡第Ⅰ号住居跡24

沖田Ⅲ遺跡第５号溝跡13

沖田Ⅲ遺跡グリッド４

沖田Ⅲ遺跡第11号住居跡 8

沖田Ⅲ遺跡第16号住居跡 6

沖田Ⅲ遺跡第19号住居跡 2

沖田Ⅲ遺跡第 3 号溝跡 6

沖田Ⅲ遺跡第 5 号溝跡15

沖田Ⅲ遺跡第14号溝跡28

沖田Ⅲ遺跡第11号住居跡 7

沖田Ⅲ遺跡第 3 号溝跡 9

沖田Ⅲ遺跡第 3 号溝跡 7

沖田Ⅲ遺跡第 3 号溝跡 8

報告書抄録

ふりがな	おきたⅠ／おきたⅡ／おきたⅢ
書名	沖田Ⅰ／沖田Ⅱ／沖田Ⅲ
副書名	岡部町西部工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	Ⅰ
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第231集
著者氏名	木戸春夫
編集機関	財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369-0108　埼玉県大里郡大里村船木台４－４－１　TEL 0493－39－3955
発行年月日	西暦 1998(平成10)年11月30日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（m²）	調査原因
沖田Ⅰ遺跡（おきたいちいせき）	埼玉県岡部町（さいたまけんおかべまち）大字榛沢295番地10（おおあざはんざわばんち）	11405	139	36°12′42″	139°12′22″	19970401～19970430	3,700	工業団地建設に伴う事前調査
沖田Ⅱ遺跡（おきたにいせき）	埼玉県岡部町（さいたまけんおかべまち）大字榛沢303番地5（おおあざはんざわばんち）	11405	140	36°11′40″	139°11′40″	19970106～19970331 19970502～19970530	4,500	工業団地建設に伴う事前調査
沖田Ⅲ遺跡（おきたさんいせき）	埼玉県岡部町（さいたまけんおかべまち）大字榛沢303番地11（おおあざはんざわばんち）	11405	141	36°12′20″	139°12′20″	19970106～19970331 19970701～19970829	4,800	工業団地建設に伴う事前調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
沖田Ⅰ遺跡	集落跡	縄文時代前期 古墳時代 平安時代	竪穴住居跡６軒 土壙７基 竪穴住居跡５軒 掘立柱建物跡６棟 土壙５基 溝跡10条 竪穴住居跡１軒 掘立柱建物跡１棟 土壙18基 井戸跡１基	縄文土器 石器 土師器 須恵器 土製品 鉄製品	
沖田Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代前期 平安時代	河川跡１条 土壙３基 溝跡１条	縄文土器 石器 土師器 須恵器	
沖田Ⅲ遺跡	集落跡	縄文時代前期 古墳時代 平安時代 中・近世	竪穴住居跡３軒 竪穴住居跡10軒 方形周溝墓７基 竪穴状遺構５基 溝跡14条 道路状遺構１条 土壙12基 溝跡２条 井戸跡１基 土壙墓１基	縄文土器 石器 土師器 須恵器 土製品 鉄製品 陶磁器 銭貨	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第231集

大里郡岡部町

沖田Ⅰ／沖田Ⅱ／沖田Ⅲ

岡部町西部工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告

－Ⅰ－

平成10年11月20日　印刷
平成10年11月30日　発行

発行／財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 大里郡大里村船木台４－４－１
電話　0493（39）3955

印刷／巧和工芸印刷株式会社